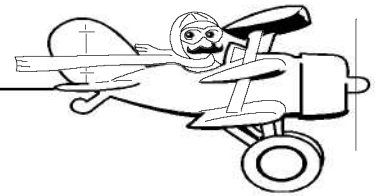


経営者のための生命保険講座 第 141回

今回のテーマ

保険料負担を軽減させるには!?



今回は、保険料負担を軽減させて、保険に加入する方法を考えてみましょう。
 生命保険の本来の目的＝保障を得るのに最低のコストで加入する方法はいかに？
 現在では、各保険会社からさまざまな保険商品が提供されています。
 その一部を紹介しますので、ぜひご参考にしてください。

★なるべく安い保険料負担で加入するために－【健康体料率の活用】

健康状態の良好な方の保険料を割引する制度です。
 加入条件としては、「身長と体重のバランス」・「血圧の数値」・「喫煙の有無」等によって判断します。

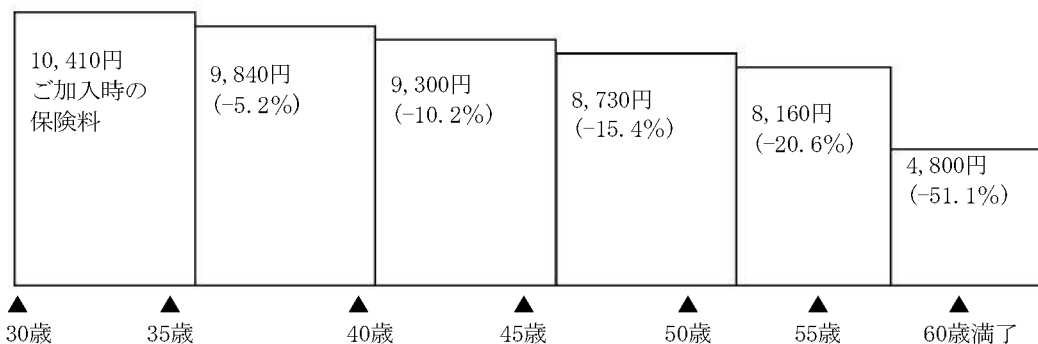
《保険料例：定期保険、男性、保険金額3000万円、保険期間60歳満了、全期払、口振月払》

契約年齢	標準体	喫煙健康体		非喫煙標準体		非喫煙健康体	
			対標準体		対標準体		対標準体
30歳	9,240円	9,060円	▲1.9%	7,680円	▲16.8%	6,720円	▲27.2%
40歳	12,300円	12,060円	▲1.9%	10,110円	▲17.8%	8,700円	▲29.2%
50歳	17,400円	17,100円	▲1.7%	14,370円	▲17.4%	12,240円	▲29.6%

★将来的な保険料負担を軽減させるために－【保険料逡減払の活用】

主契約の保険料が、5年ごとに初年度保険料の5%相当額ずつ減少し、保険期間満了直前5年間は、初年度保険料の50%相当額となる方式です。
 (ただし、保険料の下限は、保険期間を通じて初年度保険料の50%相当額となります。)

《保険料例：収入保障保険、30歳男性、年金月額30万円、保険期間60歳満了、全期払、口振月払》



() 内はご加入時の保険料に対する減少の割合

今回は保険料負担を軽減させて保険に加入する方法をご紹介いたしました。
 また、保障内容自体の見直しや各種制度を組み合わせることで、より一層
 安い保険料負担で必要な保障を準備することも可能です。
 具体的なお相談に応じますので、お気軽に声をかけてみてください。



<担当:西丸保幸>